

平成 31 年度 全国学力・学習状況調査における勝山市の結果について

勝山市教育委員会

平成 31 年度全国学力・学習状況調査（小学校 6 年生、中学校 3 年生対象・4 月実施）について、勝山市の児童生徒の結果をお知らせします。

学校と勝山市教育委員会では、児童生徒一人一人の学びの充実を図り、「生きる力」を育てるため、引き続き家庭や地域と連携した教育活動の推進に努力してまいります。そのために、本調査は学力の特定の一部分ではありますが、その結果を有効に活用していきたいと思えます。

また本調査からは、児童生徒の学習状況や生活の様子についても振り返る材料を得ることができます。学力との関連性など、よりよい生活リズムの習慣化に向けて、ご家庭でもぜひご利用ください。

【1】勝山市の平均正答率について

本年度の調査は、「小学校 国語・算数」「中学校 国語・数学・英語」において実施されました。

勝山市全体の平均正答率を、福井県および全国の平均正答率とのポイント差(点数差)により比較します。

「高い」>3 $3 \geq$ 「やや高い」>1 $1 \geq$ 「同程度」 ≥ -1 $-1 >$ 「やや低い」 ≥ -3 $-3 >$ 「低い」

	教科名	県と比較して	国と比較して
小学校	国 語	高い	高い
	算 数	高い	高い
中学校	国 語	同程度	高い
	数 学	やや低い	高い
	英 語	やや低い	同程度

※中学校英語については、4 領域「聞く」「読む」「話す」「書く」のうち、3 領域「聞く」「読む」「書く」のみの結果となっています。「話す」については、この結果に含まれていません。

【2】各教科の概要について

<小学校>

	成 果	課 題
国 語	○文と文のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書くこと ○漢字を文の中で正しく使うこと ○目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読むこと	▲目的に応じて、複数の情報を取り上げて、理由を明確にして、自分の考えを書くこと
算 数	○棒グラフから、資料の特徴や傾向を読み取ること ○示された計算の仕方を解釈し、別の計算に適用したり、利用したりすること ○示された場面から、目的に適したともなって変わる 2 つの数量を見出すこと	▲資料の特徴や傾向を関連付けて、根拠を導き出し、答えを導いた理由を記述すること ▲示された計算の仕方を解釈し、例文をもとに、成り立つ性質を記述すること ▲答えを求めている式から、答えの求め方を解釈し、説明を記述すること

○国語の力は、全体的に優れています。特に、「目的に応じて、文書の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読むこと」が、よくできていました。また、「目的に応じて、本や文章全体を概観して効果的に読むこと」もよくできていました。

▲「目的に応じて、複数の情報を取り上げて、理由を明確にして、自分の考えを書くこと」については、課題がありました。「情報」の領域では、これまでも教科書教材などを用いて、事実と考えを読み分けられるように学習しています。学習指導要領が改訂になり、来年度から取り組んでいく学習内容には、「情報の扱い方」に関する事項が新設されています。子供たちが、得た情報を正しく読み取り、整理していく力を身に付けていくために、目的に応じて文章を読み、必要な情報を取り出し、整理して書く学習の充実を図っていきます。

○算数では、いくつもある図形の中から台形を見分けること、棒グラフから事象の傾向を読み取ったり変化の様子を数値で答えたりすること、示された計算方法を使って答えを求めることなど、算数の知識や技能の分野がよくできていました。遊園地での待ち時間の問題では、人数、時刻、時間、列の長さなど、複数の情報が示される中、問題解決のために必要な数量を見出すこともよくできていました。

▲どれが台形かを判別したり計算結果を求めたりなど、解を求めることができる一方で、その解の求め方を記述により説明することに課題が見られました。どのように考えた結果なのかは把握できるものの、その結果に至る過程を説明するためには、説明に必要な要素を判断し、順序良く述べる力が求められます。基礎基本を身に付けるための取組を継続するとともに、必要な情報を得て、関連付けて考える力、考えたことを表現する力の育成を図っていきます。

<中学校>

	成 果	課 題
国 語	○封筒の書き方を理解して書くこと ○話し合いの発言について、相手に分かりやすく伝わる表現について理解すること ○書いた文書を読み返し、論の展開にふさわしい語句や文の使い方を検討すること	▲話し合いの話題や方向をとらえて的確に話したり、相手の発言を注意して聞いたりして、自分の考えをもつこと
数 学	○平行移動の意味を理解していること ○証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解していること ○四角形について、結論が成り立つための前提を考え新たな事柄を見出し説明することができること ○連続する5つの奇数の和が中央の奇数の5倍になることを説明すること	▲一次関数で表されている日常生活での事象について、グラフ上の座標の差を事象に即して解釈すること ▲式やグラフを用いて、総費用が等しくなる使用年数を数学的に説明すること ▲資料の傾向を的確にとらえ、判断の理由を数学的な表現を用いて説明すること
英 語	○スピーチを聞いて、話の概要を理解することができる。 ○日常的な話題について、情報を正確に聞き取ることができる。 ○日常的な話題について、簡単な文で書かれた内容を正しく読み取ることができる。	▲書かれた内容に対して、自分の考えを示すことができるよう、話の内容や書き手の意見などをとらえること ▲与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりなどして、会話が成り立つように英文を書くこと

○国語では、封筒の書き方を理解し、文字の大きさや配列などに注意して書くことがよくできていました。SNSの普及により、はがきや手紙を書く機会が減ってきている中、学校では、職場体験でお世話になった方や書写の時間を有効に使い、実際に書く活動を通して学習しています。今後も、機会をとらえて、生徒の体験が確実に身につくように、定着を図っていきます。

▲一方、「話し合いの話題や方向をとらえて的確に話したり、相手の発言を注意して聞いたりして、自分の考えをもつこと」に課題があります。ただ、生徒質問紙からは、生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う生徒が80%、国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり書いたりしていると思う生徒が約81%いることが分かりました。これらの結果から、学校生活や授業の中で、協働的に学んだり、友達の意見と自分の考えの類似点や相違点を見つけながら、より深く追及していることが分かります。今後も、自分の考えを形成しながら、さらに国語で正確に理解したことを適切に表現する活動場面を設定し、資質・能力の育成を目指していきます。

○数学では、平行移動や三角形の合同条件、四角形の性質など、図形領域の知識について、理解が高い様子が見られました。また、その知識を活用して答えを導くことについてもよくできてました。文字の式が表していることを場面に関連付けて説明することを苦手としている傾向がありましたが、本年度の調査では、「連続する5つの奇数の和は中央の奇数の5倍になる」ことをモデルとなる説明をもとに筋道を立てて説明する問題の結果から、一定の改善が見られました。

▲課題が見られた領域は、「関数」「資料の活用」です。「関数」の領域については、グラフから読み取れる「差」が何を表しているのかを事象に即して読み取ること、また、グラフを活用して問題解決を図る方法を説明することなど、知識や技能を活用することに課題が見られました。「資料の活用」の領域では、日常的によく使われている平均値とヒストグラムから行った分析について、その分析が的確かどうかを判断しその理由を述べることに課題が残りました。どちらの領域においても、今後の授業では、「事象」「式」「グラフ」「表」、また、「ヒストグラム」「平均値をはじめとする代表値」それぞれへの知識や求めるための技能のさらなる習得を目指すとともに、得た知識や技能を活用して思考・判断・表現する場面のある授業を充実させていきます。

○勝山市では、平成26年度より、外国語教育強化地域拠点事業による英語教育に取り組んできました。英語を用いて互いの気持ちや考えを伝え合う活動を重視し、小学校3年生から系統的に取り組んできました。その成果が、今回の「スピーチを聞いて、話の概要を理解することができる」や「日常的な話題について、情報を正確に聞き取ることができる」など聞く力に表れています。

▲一方、「書かれた内容に対して、自分の考えを示すことができるよう、話の内容や書き手の意見などをとらえること」や「与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりなどして、会話が成り立つように英文を書くこと」には、課題がみられます。生徒質問紙では、1年生のときに、自分の考えや気持ちなどを英語で書く活動が行われていたと思う生徒が約90%いることが分かりました。今後は、これまで同様、やり取りで進める授業に取り組みながら、語彙や文法の正確性に十分留意し、英語で表現する力を強化していきます。

【3】児童生徒質問紙について

(1)「良好な点」と「改善したい点」について

生活態度面や全般的な学習態度面の調査結果について、「良好な点」として、昨年度と比較して改善がみられるものや県の平均値と比べて明らかに上回ったものを中心に、「改善したい点」として、昨年度と

比較してよくない結果となったものや県の平均値と比べて明らかに下回ったものを中心にまとめました。

＜小学校＞

良好な点	改善したい点
○一定の時刻に就寝・起床している児童が増加した。（昨年 就寝 80.1%、起床 90.8% → 今年 就寝 86.3%、起床 98.2%） ○「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある」「難しいことでも失敗を恐れないで挑戦している」と明確に感じている児童が県平均や国平均と比較してたいへん多い。 ○ほとんどの児童が、学級みんなで話し合っただけで決めたことなどに協力して取り組みうれしかった経験をしてる。（90.8%） ○地域の行事にほとんどの児童が参加していたり（昨年とほぼ同じで 90.2%）、地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがあったり（昨年 54.3%→今年 70.2%）、地域に関心のある児童が多い。 ○外国のことを知ったり外国の人と関わりを持ったりしたい児童や自分の住んでいる地域を外国の人に知ってほしいという児童が多い。 ○道徳の授業において、自分の考えを深めたり学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいると感じている児童が多い。（94.6%） ○家庭学習に毎日少なくとも 1 時間以上取り組む児童は 75.3%で県平均よりも高い傾向が続いており、2 時間以上家庭学習する児童の割合も増加した。（昨年 15.1%→今年 17.8%）	▲学校や授業以外に読書を全くしないと答えている児童は昨年度よりも減少したが、国や県よりも多い。 ▲算数の授業で問題を解くとき、さらに簡単に説く方法を探ろうしない傾向のある児童が多い。

○「毎日、同じくらいの時間に寝ている」「毎日、同じくらいの時間に起きている」児童が増加しました。家庭学習時間の習慣化も進んでいます。これらの生活リズムが安定することによって、心身の状態も安定し、充実した活動につながります。今後もお子さまとともに生活リズムを振り返る時間を持っていただき、よい生活リズムの継続をお願いいたします。

○地域との関わりについても、継続して意識の高さが見られました。特に、地域や社会をよくするために何をすべきか考える意識が高まりました。外国の人に地域のことをもっと伝えたいという意欲の高さから、ふるさとへの思いの強さも伝わってきます。地域の協力を得て、見学や体験を交えた学習を行うことにより ESD が充実している成果だと考えられます。今後も地域と連携しながら、ふるさと学習、環境教育を柱とした ESD に取り組んでいきます。

○外国のことや人への関心の高さは、これまで取り組んできた外国語活動の成果だとも考えられます。ALT や CIR との定期的な交流を継続していきます。

○新学習指導要領（令和 2 年完全実施）がめざす「主体的・対話的で深い学び」に向けて、授業研究が

着々と進められています。学級みんなで話し合っただけで決めたことなどに協力して取り組みうれしかった経験をしたり、道徳の授業において、自分の考えを深めたり学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいると感じていたり、授業研究の成果が功を奏している結果となりました。

○▲「社会に出たときに役に立つ」「あきらめずにいろいろな方法を考える」など学習に対する意識が高いことに加え、「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある」「難しいことでも失敗を恐れないで挑戦している」など、学校生活全般に対して積極的な姿勢が見られました。しかし、算数において、一つの答えを見つけた後、もっと簡単な方法で答えを見つける手立てはないかを考える意欲がやや低い傾向がありました。授業改善の一つの視点としてとらえ、児童にそのよさを感じさせるような活動のある授業を行っていきます。

▲平日、学校や授業以外では全く読書をしないという児童が本年度も5人にひとりいます。また、昼休みや放課後、また、学校が休みの日に、学校の図書室や地域の図書館に全くいかないという児童も5人にひとり程度います。学校においては、今後も、読書タイムや授業中の読書活動、児童会活動での企画を通して、読書に親しむ活動を推進していきます。

＜中学校＞

良好な点	改善したい点
○ほとんどの生徒が毎日朝食を食べ、一定の時刻に起床している傾向は、本年度も継続。 ○自分には良いところがある・どちらかといえばあると思う生徒が増えている。(一昨年 65%→昨年 71%→今年 75.8%) ○平日読書を全くしない生徒が大きく減少した。 (昨年 24.1%→今年 17.6%) ○新聞を読んでいるかについて、「ほぼ毎日」「週に1, 2回」と答えた生徒が昨年度よりも増えた。(昨年 19%、→今年 24.3%) ○本年度も地域の行事に参加している生徒がたいへん多く、県・国の水準を大きく上回っている(昨年 75%→今年 78%)。また、地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある生徒の割合も高い。(一昨年 29%→昨年 48%→今年 50.3%) ○外国の人との関わりへの意欲や日本や地域のことを外国の一つ知ってもらいたいという意欲が、県や国に比べて高い。	▲家の人と学校での出来事について話をする生徒がここ数年増加しているが、県・国よりやや少ない。(一昨年 68%→昨年 73%→今年 75%) ▲課題解決に向けて、自分で考え自分で取り組んでいると感じている生徒が県や国のに比べてやや少ない。(県 78.2%、国 74.8%、市 70.9%)

○一定の時刻に起床し、朝食をとる生活習慣が定着している様子は、中学生になっても見られます。このようなよい生活リズムを継続していけるよう、学校でも生活習慣をふりかえる取り組みをしていきます。

○短い時間でも読書をしたり、新聞に目を通したりする生徒が増加しています。ネットを利用することだけに偏らず、情報を得るためのいろいろな方法を体験してほしいと思います。

○地域との関わりについては、小学生と同様に、積極的な様子が見られます。地域に中学生を受け入れる

体制が整っていることが地域行事への参加率の高さを支えている一因だと考えられます。地域においては、地域の行事に中学生も参加する機会をこれまで同様に設けていただき、地域を担う人材であることを実感する機会の提供にご協力ください。また、小学校での学びをもとに活動範囲を広げて活動することにより、さらに深まりのある活動が行われていることも見えてきます。ESDにおいても小中連携を行い、小中ともにふるさと学習と環境教育に軸足を置いたESDを展開していきます。

○外国の方に地域のことを知ってもらいたいという気持ちは、地域を誇りに思う気持ちの表れであるとともに、小学生のころから取り組んできた外国語活動の成果であるとも言えます。英語科の学習においても小中連携のより一層の充実を目指していきます。

○▲家の人と学校での出来事について話をする生徒は国や県と比べるとやや少ない傾向にありますが、ここ数年、増加傾向です。自分から積極的に話をするのが少なくなることも考えられますが、学校からのお便りやブログなどを話題作りにご利用ください。

▲課題解決に向けて、自分で考え自分で取り組んでいると回答した生徒がやや少ない一方、道徳の授業においては自分の考えを深めたり学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいたと答えている生徒が比較的多い傾向があります。学校全体で道徳の研究に取り組んでいる成果だと考えられます。今後、その成果が他の教科に波及していくことが期待できます。

（２）正答率との間に関連が見られた質問項目について

新規・変更・削除となっている質問事項がありますが、ここ数年の分析から、教科の正答率と相関関係が見られた項目について、主なものを7例まとめました。ぜひ、ご家庭でも話題にとりあげてください。

なお、右端欄内のポイント数は、各項目について「当てはまる」と答えた児童生徒と、「当てはまらない」と答えた児童生徒との平均正答率のおおよその差を、教科ごとに示したものです。

項 目	教科ごとの正答率の差	
起床時刻が定まっている児童生徒は正答率が高い。 5年連続同じ傾向	小学国語	19ポイント差
	小学算数	10 "
	中学国語	16 "
	中学数学	39 "
	中学英語	19 "
前学年で受けた授業において、うまく伝えるように、理由を示したり資料や文章、話の組み立てを工夫していると答えている児童生徒は、正答率が高い。 4年連続同じ傾向	小学国語	13ポイント差
	小学算数	17 "
	中学国語	14 "
	中学数学	29 "
	中学英語	20 "
家で、自分で計画を立てて勉強している生徒は正答率が高い。 2年連続同じ傾向	小学算数	13ポイント差
	中学国語	14 "
	中学数学	23 "
	中学英語	15 "
「〇〇の教科は好きだ」と答えている児童生徒は、正答率が高い。	小学国語	11ポイント
	小学算数	18 "
	中学数学	20 "

	中学英語	14	〃
ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがあると答えている児童生徒は、正答率が高い。	小学算数	24	ポイント差
	中学国語	18	〃
	中学数学	12	〃
	中学英語	17	〃
前学年に受けた授業で、課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと答える児童生徒は、正答率が高い。	中学国語	27	ポイント差
	中学数学	34	〃
	中学英語	19	〃
自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると答えた児童生徒は、正答率が高い。	中学国語	25	ポイント差
	中学数学	37	〃
	中学英語	22	〃

○基本的な生活習慣に関する結果からは、睡眠に関する生活習慣について、特に、起床時刻については、5年連続で相関関係が見られました。また、家庭においても自分で計画を立て見通しをもって学習に取り組むことも生活リズムの一部です。学校においては、授業や諸活動において、見通しをもって取り組めるような工夫をしています。自律心や自己調整力をさらに高めていけるよう、今後も継続していきます。

○好きな教科の正答率が高いという結果が見られました。「この教科が好きだ」「授業が面白い」「授業がよくわかる」と、多くの児童生徒が感じることでできる授業をさらに目指していきます。

○「話の組み立てを工夫する」「自分で考え、自分から取り組む」「自分の考えを深めたり、広げたりする」は、学びに向かう意欲の高さです。「最後までやり遂げてうれしかった」という経験がその意欲へとつながり、充実した活動へとつながっているとも考えられます。児童生徒が学校生活の中でそのような経験ができるよう、授業改善を継続・推進し、主体的に学ぼうとする態度の育成や達成感を自覚できるような活動を今後も行っていきます。

【4】今後の方針について

(1) 学校で取り組むこと

※以下のもの以外にも、各校の方針があります。

<ア>学級集団、学年集団、学校集団の育成

児童生徒それぞれが自分の居場所を見だし、安心して過ごせるような集団を育成するという視点を重視します。そのために、児童生徒が互いを尊重し、自ら課題を見出し、協働しながら課題解決に取り組んでいく授業や活動を推進します。

<イ>ていねいな教育、鍛える教育の推進

知識・技能の習得、思考力・判断力・表現力等の育成、学びに向かう意欲や態度の育成を目指します。そのために、教員が児童生徒一人一人と向き合い、見通しとふりかえりのある授業や活動を行うことにより、確実な習得のある学び、それを実現する授業改善を目指します。

(2) ご家庭にお願いしたいこと

<ア>規則正しい生活習慣の定着

生活リズムが崩れるきっかけは、「夜更かし」と「不規則な食事」です。決まった時刻に朝食や夕

食をとること、起床すること、就寝することを心がけた生活をお願いします。生活リズムについてお子さんと話し合い、生活リズムをふりかえり整えようという意欲をお子さんに促していただきますようお願いします。

<イ>家族の団らんを大切に

家事のお手伝いをしている時や食事のテーブルを囲んでいる時などに、家族で話をしましょう。互いの話を聴き合ったり思いを受け止め合ったりなど、ご家庭でのあたたかなふれ合いが、お子さんの心の成長には不可欠です。お子さんの成長とともに生活リズムが変化し、ご家族で過ごす時間にも変化が生じることもありますが、ご家族と過ごす時間は、どの年代のお子さんにとっても同様に大切です。ご家族で過ごす時間を大切にしてください。

【5】むすび

小学校においては、昨年に引き続き、国語・算数ともに、県平均、国平均を上回る結果を達成することができました。今回の結果と各校のこれまでの取組を分析し、効果があった取組については継続、見直しが求められる取組については改善を行い、今後も確実な基礎基本の定着を目指していきます。

中学校においては、ここ数年、教科によっては県平均に達しない教科があります。しかし、領域によっては、県水準を上回るものもあり、これまでの授業改善が功を奏していると考えられます。各校においても分析を行い授業づくりに生かすとともに、授業改善及び小学校との連携を進め、さらなるレベルアップを目指し取り組んでいきます。

子どもたちには、社会的変化を乗り越え豊かな人生を切り拓くために、将来をたくましく生き抜く力を育てたいと考えます。この全国学力・学習状況調査では、学校教育の成果の一部を調査したに過ぎませんが、そのような力を育成するためには、小中学校での学習内容を習得することが重要な基礎になっていきます。そうした観点から、この調査の結果を踏まえ、今後さらに効果的な学習の進め方を研究し、一層の学力向上に努力してまいります。

保護者をはじめ市民の皆様のご理解、ご協力をお願いいたします。